

春季県大会の初戦突破で選手権大会のシード権を獲得
中部地区大会のリベンジなるか 頑張れ静岡！

H23年4月30日に第58回春季東海地区高等学校野球静岡県大会の2回戦が富士球場で行われた。

静岡は中部地区大会2位の実績で1回戦を不戦勝となり、富士宮西高校と対戦した。この試合に勝てば春季県大会のベスト8となり選手権大会のシード権が獲得できる重要な一戦であった。

初回到ヒットと四球のランナーを3盗塁で還した機動力野球で先制、中盤以降、飯塚、中本の連続ホームランを含む5本の長打で大量得点を挙げ10対3で圧勝した。調整の為に戦列を離れていた2年生エースの中本投手が好投、7回を無失点に押さえた。投手陣の大黒柱であった中本投手の復活は夏に向けて大きな収穫となった。

準々決勝は東部地区1位の市立沼津高校を破った三ヶ日高校と対戦する。同校は春季県大会の34年ぶり勝利で波に乗っており油断大

静高	400	022	03	11
静商	200	000	00	2

(8回コールド)

大台に到達する。

平成21年の秋季静岡県大会で31年ぶりの優勝を果たした以降は、東海大会で中京高校にサヨナラ負けを喫し、22年度は春季県大会と選手権大会の序盤で敗退した他センバツ出場に直結する秋季県大会に進出することが出来なかった。

今年度の3月以降の戦績は好調である。恒例の浜松商業と沼津商業との所謂三商大会に連勝した他、愛知県・千葉県遠征でも有力

【三商大会・清水庵原球場にて】
春季地区大会5試合のうち3回戦と決勝戦の2試合について触れておきたいと思う。

3回戦の対戦相手の常葉橘高校は、2年連続して甲子園に出場した強豪中の強豪で注目の一戦となった。この一戦に勝てば選手権大会のシード権獲得を競う春季県大会に出場出来るまさに大一番であった。

試合結果は静岡が序盤に5点の

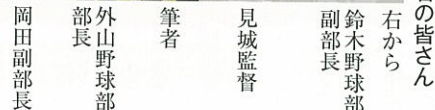
考えた。初回先頭打者にストレー
 トの四球。2番バッターのヒット
 の打球処理を左翼手がエラーしラ
 シナー 二・三塁。挟殺プレーと
 ホームアウトで二死。相手の拙攻
 でピンチを脱したと思われたあと
 の四球。
 満塁で走者一掃の二塁打で3失
 点。今度は三塁手のエラーで追加
 点。初回から強豪校に4失点では
 苦しい。平成22年に定期戦、静岡
 市内大会を含めて静岡高校と3回

静岡 静高	110	000	017		
静岡 静商	120	001	221	9	10

が絡めば期待が持てる。
母校の攻撃陣と守備は4番捕
手中村の長打力と強肩は健在
で、中堅浅野の機動力と守備範
囲、3番遊撃手村松の長打力と
堅実な守備などが評価できる
が、リードオフマンの左翼三津
田の負傷欠場が攻守両面に大き
なマイナス要因となっているよ
うに思える。静高戦も守備の乱
れがなければという愚痴をこぼ
したくなる。

り頑張っしてほしいと思う。

筆者の期待と願望は静商が決勝進出を果たし、静高との決勝対決が実現することであるが、同窓会関東支部会報第20号がお手許に届く5月末にはその結果が出ている。期待と願望を予想に置き換えるの通りに実現していたら鼻高々である。5月8日に行なわれる予定の静高との第53回野球定期戦の結果共々楽しみである。こちらは勝利すれば遅ればせながら20勝の



チームに与えられる選手権大会の
シード権は、甲子園出場への近道
とも言われている。

次に静岡高校と対戦した決勝戦
のコールドゲーム負けについて感
想を述べたい。

昨年の秋季中部地区大会の大
逆転負けの後遺症があるのでは
ないかと思うような試合展開と
なった。静高の圧倒的な攻撃力に
先発投手や野手が立ち上がりから
過剰意識をもちすぎていたよう

万事休す。残念ながらコールドゲームが成立した。静高打線の得点力は出場校中群を抜いている。この大会でも5試合中4試合をコールド勝ちとしている。

平成22年中の静高との対戦結果を振り返ってみたい。

定期戦 4月29日

静高	022	300	020	9
静商	000	113	002	7

秋季中野地区大会 3回戦 3月8日

る。期待の新二年生に中本、左賀、今本の三本柱がおり、早期の体制整備が待たれる。上級生では成長著しいエースの河野に加え鈴木隼人と近藤の戦力復健が心強い。静高投手陣は県大会出場の上位12校中（各地区のベスト4）最小失点に押さえているが、本来のエースが回復していない弱点もあるようだ。打ち勝つという理屈も成り立つはずだ。勝つ。そして二時前の機動力

敵である。別のゾーンには西部地区1位校の浜松西高校などの強豪校が立ちほだかつており決勝進出は容易ではない。春季県大会の上で進出が夏の大会組み合わせ上で大きなプラス要因となるものである。

校相手に互角以上の実績を示している。因みに今年の3月～4月までの戦績は17勝4敗1引き分である。

大量点を挙げ、中盤にも駄目押しの追加点を加え7対2の圧勝となった。

対戦しているが全敗しており、選手諸君には辛口で失礼ながら、静高に対する苦手意識があるのではないかと思わざるを得ない。8回に4番バッター小川に

今回のコールド負けは全く予想外の展開となつてしまい、力の差が出ているという謙虚な見方も必要かもしれない。強打静高に勝つためには当然のこと

[illegible]

の試合は静商8回の追加点後、なお二死二・三塁のチャンスにあと一本のヒットが出ていたらコールドゲーム勝ちとなったものであり紙一重の勝負であった。

なお、硬式野球部関東遠征日程は、号外2ページに掲載